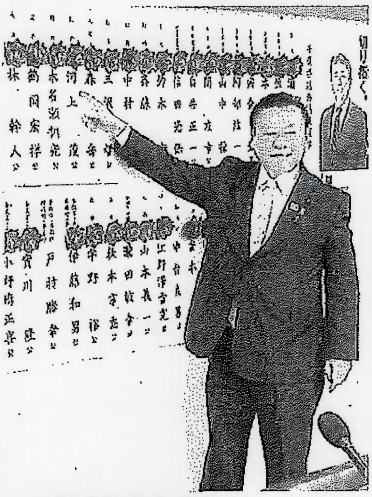
２０１９年４月９日　千葉日報
第3種郵便物認可

自民「参院選へ良い結果」
立憲「投票率上げねば」
国民「野党まとまりを」



当選の花を指でさして笑みを浮かべる自民党県連の桜田義孝会長＝千葉市中央区

各党県議選を総括

統一地方選

統一地方選前半選の投開票から一夜明けた8日、各党の代表は県議選の結果を振り返った。推薦含め過半数を維持した自民党は「参院選に向けて良い結果だった」とする一方、立憲民主党は「投票率を上げないと勝てない」、国民民主党は「野党がまとまらなければならない」と危機感を募らす。与野党の目線は早くも夏の参院選に向いていた。

「県民は安定した県政を求めた。アベノミクスが停滞した経済を動かし、着実に積み重ねた政策が国民に評価されたと思う」

当選者の名前に花が添えられた掲示板の前で、自民党県連の桜田義孝会長は笑顔で記者会見に応じた。初めて推薦した女性候補2人も当選し、「女性活躍の時代に、女性議員が自民党に誕生することをうれしく思う」と述べた。「参院選に向けて一定の支持を得た」とも話した。

「自民と連立を組む公明党は8人全員が当選。県本部の富田茂之代表は「条例提案権を維持できたのでよかった」。立憲については「思ったほどブームにならなかったなあと。それを参院選にどうつなげるかだ」と指摘した。

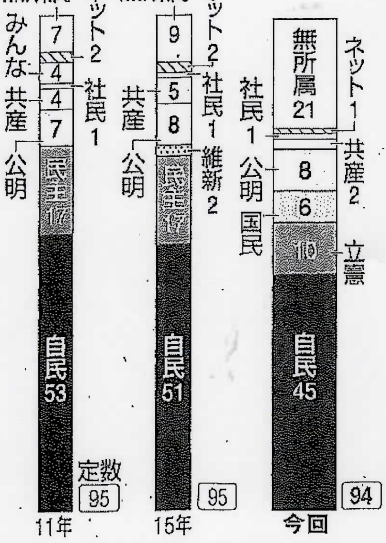
一方、10議席を獲得し、国民を抜いて県議会第2党になった立憲。生方幸夫県連代表は「たいしたことではない。20議席とか30議席取らなければダメだ。もっと当選する可能性はあったが、候補者が集まらなかった」と悔しさをにじませた。参院選に向けては「投票率を上げることが一番だ。投票率が低いと固定票がある自公に有利。選挙への関心を高めなければならない」と話した。

立憲とともに旧民進党の流れをくむ国民は6議席にとどまり、立憲との明暗は分かれた。国民県連の奥野総一郎代表は「（旧民進党が）縮小して、中の構成が変わっているだけ。対抗軸としての野党を考えた時に、すごく気になる」と話す。「内輪でけんかしているとしか国民に見られていない。そこを解消しなければ、野党は増えない」と危機感を示した。

船橋市選挙区に2人擁立し共倒れするなど、現有5議席から2議席にとどまった共産党。県委員会の浮揚幸裕委員長は「大変厳しい結果で、我々の力不足だ。立憲と競合した可能性については「これから検証するが、立憲と競合はしない。あくまで保守、無党派の思いを票に結びつける戦略を貫く」と話す。

議席奪還が果たせなかった日本維新の会の藤巻健史参院議員は「関東では実績を示すチャンスがなかった。大阪の党というイメージも先行しているのではないか」と敗因を分析した。

無投票当選した社民党県連合・小宮清子代表は「福祉県政ちばを訴えたかったが、その機会がないのは残念だった」。佐倉市・酒々井町選挙区で1議席を確保した市民ネットの山本友子県議は「あくまで地域に根を張った地域政党としての評価はしていただいた」と話した。

（古賀大己、寺崎省子）

千葉県議選の党派別当選者数